※1
幼小通信「３分くらいで読める遊びの話」　2026年4月30日(木)　山形県教育委員会　vol.0024

3分くらいで読める遊びの話

物的環境がもつ固有性

A児に育ちつつあることとは？

春、年長組に上がった子供たち。園の一番のお兄さんだ。不安気な様子の年少組の子たちとは対照的に、登園後真っ先に園庭に飛び出して行く年長児たちにとって、園庭はまさに、勝手知ったるぼくたちのお庭である。が、他方から見れば、別の捉え方もある。というのも、年長組の部屋に入った初日から、まるで、全て初めて見るかのように、保育室のあちこちを覗き込んだり、室内や園庭のいろんな環境に興味深々の様子だったり、興奮を抑えきれない様子が続いている。憧れのお兄さんやお姉さんに、自分たちがなったという高揚感や好奇心で、今、溢れているのだ。

「これはきっと、お庭でも面白いことをすぐに見つけるぞ」

担任はそんな期待を抱きながら、急いで支度を済ませ、園庭に出る子供たちを追いかけた。

すると、A児たちがコンクリート土管の周りで、早速何かを始めている。拾った石をガリガリと土管に押し付け、削り、時に投げつけ、叩き割り、粉状にして遊んでいた。

「先生、お化粧だよ」

粉を指に付け、それを自分の頬にぺたぺたと塗ってみせるA児。橙色のファンデーションだ。A児が言うには、園庭の端の畑の近くで見つけたのだという。確かに、園芸用のレンガやプランターをひとまとめにしている一角がある。A児たちは、周囲の石とは異なるレンガに目が留まったのだろう。加えて、使いちょうど子供たちの手の平サイズに割れているものが多く、運びやすく、擦ったり削ったり、誘われるかのように、いろいろと試したくなったに違いない。

「めちゃ、サラサラ」

「お肌、すべすべだ」

粉の具合を指触りや肌触りで確認しながらひたすら削る子供たち。それはやがて、土管の窪みが、削ったレンガの粉でいっぱいになるほどであった。

次の日も、A児たちは土管の周りに集まった。昨日の帰りの会で、「面白い石（レンガ）を見つけたこと」「粉になるし、チョークみたいに書けるし、とにかく不思議な石であること」を、年長組のみんなに伝えていたからか、仲間も増えていた。

しばらくすると、こちらに向かって勢いよく走ってくるA児が見えた。

「先生来て！ダイヤモンドが出た！」

〔次号に続く〕

子供の育ちのここが素敵
～モノに引き出される好奇心～

「いつもの慣れ親しんだ園の環境も、年長に上がったばかりの子供たちにとっては、昨日までとは違った見え方をしているのかもしれない」

子供たちの鼓動の高鳴りを感じながら、その子の今を丁寧に汲みとろうとする、保育者の温かさが伝わってきます。

好奇心でいっぱいの子供たちが、偶然見つけたレンガ。色味や触り心地、削れ易く割れ易い材質、それらレンガ**固有の特徴**に気付くたびに、A児らの好奇心はますます**引き出され**、遊びに没頭していきます。また、帰りの会でクラスのみんなに報告したことで、自分の遊び（レンガを見つけたこと、面白いことを発見したこと）にさらに自信をもったA児たちは、新たに加わった仲間に昨日までの遊びを解説します。そして、再び削り始めた時、「ダイヤモンドが出た！」と叫んだのです。

通信を活用して職員で感想を交流しています、などの声をたくさんいただいております。この事例で感じたことも、是非自由に交流してみてはいかがでしょうか。〔左表は感想の視点例〕

例えばこんなことで

- この後どんな展開になるの？〔予想〕
- A児に育ちつつあることってなに？
- 年長児～小１に育みたいことって何？
- 教諭・保育士として大切なことは？
- 「遊びが学び」ってどういうこと？
- 自園・校でもやってみたいことは？